

2017年2月

高島屋美術部創設 110 年記念

中島 千波 展

けんこんらんまん
— 乾坤爛漫 —

- 会期：2017年3月1日（水）→7日（火）
- 会場：日本橋高島屋6階・美術画廊 ※入場無料
- 開場時間：午前10時30分～午後7時30分

〈巡回予定〉

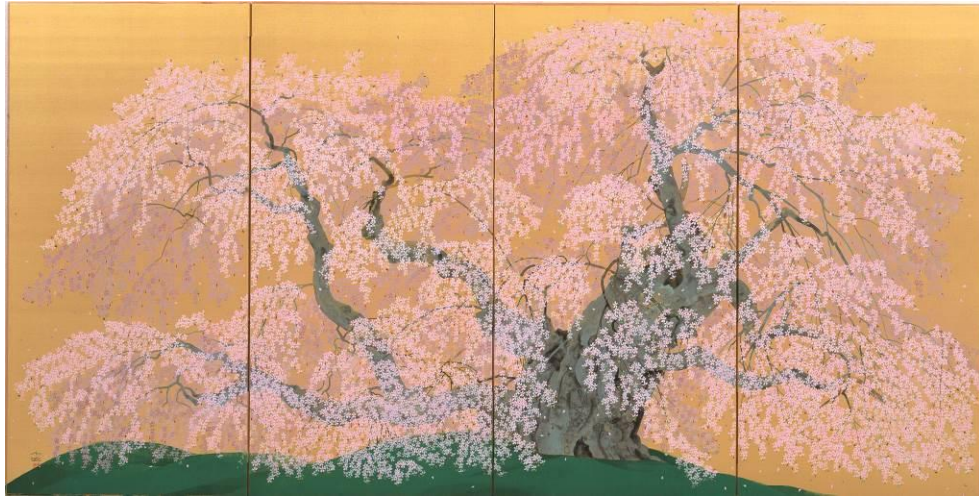
大阪展 =2017年3月15日（水）→21日（火） 大阪高島屋6階美術画廊
京都展 =2017年3月29日（水）→4月4日（火） 京都高島屋6階美術画廊
横浜展 =2017年4月12日（水）→18日（火） 横浜高島屋7階美術画廊
名古屋展 =2017年5月10日（水）→16日（火） ジェイアール名古屋タカシマヤ10階美術画廊

このたび高島屋では、日本画家・中島千波先生の個展を、美術部創設110年記念の一環として開催いたします。今や桜の画家として著名な中島先生が、全国の桜の名樹を取材し描くようになったのは1983年頃からでした。以来自然の輪廻を投影するような桜の“肖像画”を現在に至るまで描き続けています。同様に桜を詠い続けた西行が、半生を過ごしたのが高野山です。その高野山開創1200年を記念して、2015年、中島先生は金剛峯寺奥殿に絢爛な桜の障壁画を奉納され大きな話題となりました。また近年は世界の独立峰を精力的に取材し、日本画の平面的装飾性に臨場感のある写実を加えた、サント・ヴィクトワール山、マッターホルンなど気高く壮麗な山々を描いた作品を発表されています。

比類なき描写力で、徹底した写生から生み出される典雅で色彩豊かな花々、デザイン性・ウィットに富む静物や“おもちゃシリーズ”。一方、社会や人間の不条理を描き出す哲学的な人物表現。美しい花鳥画も生死を見つめる人物画も、その源泉は中島千波というひとりの画家に収斂されます。

今展では、イタリア・エトナ山、カムチャツカ・クリャーク山、福島の桜を描いた屏風をメインに、四季折々の花の作品を展覧いたします。花の小品は、色彩と墨の対比がかくれたテーマにもなっています。

異国の山の神々と桜の精霊に見守られながら、生を謳歌する花たちでうめつくされた会場を、ぜひご堪能ください。



晴耀三春乃瀧櫻 (四曲一隻屏風 172×340 cm)



早春のエトナ山 (四曲一隻屏風 171×370.5 cm)

中島千波氏略歴

東京藝術大学名誉教授。昭和 20 (1945) 年、長野県小布施生まれ。

父は、日本画家の中島清之。

東京藝術大学で日本画を専攻。花鳥画や人物画を得意とし、近年では、新聞や雑誌の挿画、表紙絵、天井画の制作、歌舞伎座の緞帳など、広いジャンルで活躍しています。

鮮やかな色合いの桜のシリーズのファンが国内外に多くいる、日本画壇を代表する作家の一人です。